

施設ナスにおける生育データを活用した迅速な草勢診断

1 対象

J A 愛知西なす協議会 32 戸うち生産技術係 6 戸

2 背景

J A 愛知西なす協議会の研究会組織「生産技術係」では、生産者自らナスの生育調査を行い、スプレッドシートによる生育データの共有を行っている。これまでは、生産技術係の定例会の場で、スプレッドシート上の生育データを見ながら今後の栽培管理について検討してきたが、定例会は1か月間隔でしか開催されないため、生育データから迅速な草勢診断を行う方法が求められていた。そのため令和6年度は、スプレッドシート上の生育データから草勢の診断を迅速に行う草勢診断ツールを作成することを目標にした。

3 活動の内容

草勢診断方法について、対象農家に3つの案を提示して意見を聞き取り、日射量1MJ当たりの着果数に着目して草勢診断を行うこととなった。農業総合試験場野菜研究室と草勢診断方法の検討を行い、日射量1MJ当たりの着果数に着目した草勢診断ツールの原案を作成した。対象農家に意見を聞きながら原案を修正し、改善を加えて草勢診断ツールの試行版の作成を支援した。草勢診断ツールについて資料を作成し、なす協議会の役員会にて報告を行った。令和6年作の栽培開始後に、定例会にて草勢診断ツールについての評価や反応を聞き取った。

4 活動の成果

対象農家らが生育データを入力し共有しているスプレッドシート上に、草勢診断ツールを作成することができた。草勢診断ツールでは、例えば着果数が時期ごとの日射量に応じた基準を上回っているような場合は一目で分かるようになっているため、普及指導員やJ Aの営農指導員から指導を受けなくても、生産者が自分で草勢の診断を行うことができるようになった。今後は、草勢診断の結果とともに、栽培管理をどのように変えると良いのかについて表示される機能を追加し、生育データの栽培への活用を支援していく。

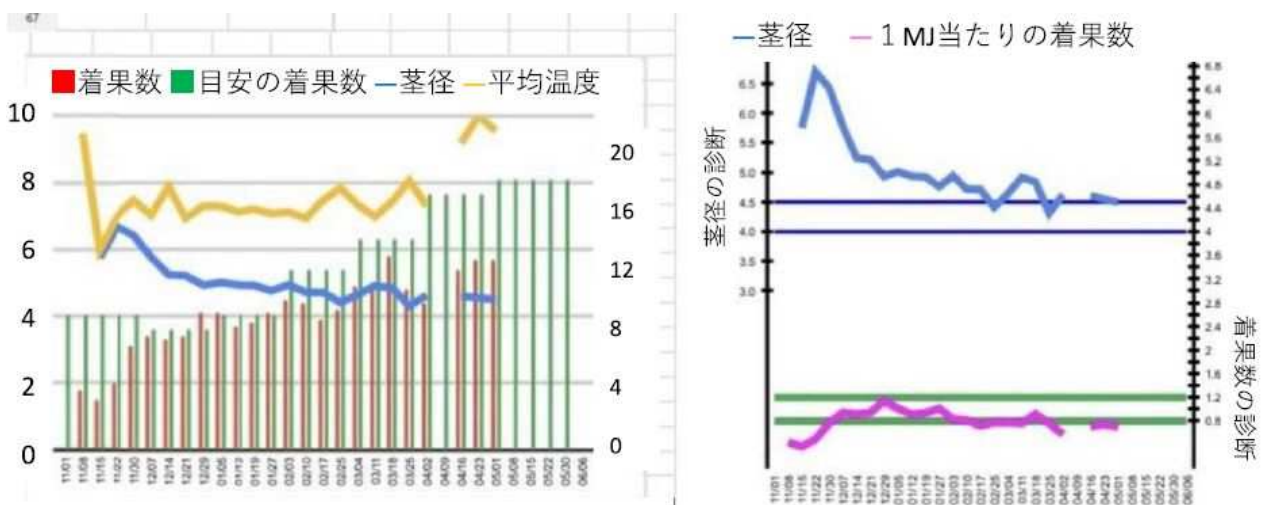


図 スプレッドシート上に作成した草勢診断ツール